

## 審議会等の会議結果報告書

【担当課】 パートナーシップのまちづくり推進

会議の名称	パートナーシップのまちづくり推進会議第1回会議		
開催日時	令和3年11月1日（火） 午後7時00分～午後8時40分		
開催場所	茅野市ひとまちプラザ 3階集会室		
出席者	<p><b>【委員】</b> 高木委員（副会長）、小池委員（副会長）、高村委員（副会長）、小林委員、入倉委員、八幡委員、坂井委員、平澤委員、丸山委員、伊藤委員、池上委員、鷹野原委員、両角委員、吉澤委員、高安委員、矢崎委員、白鳥委員、矢崎委員、河西（知）委員</p> <p><b>【市側】</b> 今井市長（会長）、柿澤副市長、山田教育長、岩島市民環境部長</p> <p><b>【事務局】</b> 有賀パートナーシップのまちづくり推進課長、武居コミュニティ推進係長、木川コミュニティ推進係主任、田中市民活動推進係長、小川ちの地区コミュニティセンター所長、両角宮川地区コミュニティセンター所長、藤巻米沢地区コミュニティセンター所長、宮下豊平地区コミュニティセンター所長、伊藤玉川地区コミュニティセンター所長、長岡泉野地区コミュニティセンター所長、北原金沢地区コミュニティセンター所長、加賀美湖東地区コミュニティセンター所長、北澤北山地区コミュニティセンター所長、鋤柄中大塩地区コミュニティセンター所長、藤澤行革・デジタル係主査</p>		
欠席者	名取委員、河西（朝）委員、小平委員		
公開・非公開の別	公開	・ 非公開	傍聴者の数 0人
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
会長	<p>1 開会 （司会進行 有賀パートナーシップのまちづくり推進課長）</p> <p>2 市民憲章唱和 （発声 八幡委員）</p> <p>3 委嘱書の交付</p> <p>4 会長挨拶 日頃から茅野市政に様々な角度から、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。本日はパートナーシップのまちづくり推進会議ということで、皆様方にお集まりをいただきました。新型コロナウイルス感染症の流行ということでこうした会を設けることができず、何をすることも不自由がつきまとう形でした。今日はこうして皆さんと会議が開かれること、大変ありがたく思っています。この後、議題も用意されていますが、このまちを、みんながよいまちだと思えるために、議論ができればと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。</p> <p>5 自己紹介</p>		

事務局	<p>6 会議事項</p> <p>本日の会議につきましては、パートナーシップのまちづくり基本条例に基づき、原則公開とさせていただきます。ここからは、会長の進行により会議事項に入らせていただきます。</p>
会長	<p>(1) 副会長の選出</p> <p>最初に副会長の選出となります。どなたか副会長をやっていただける方がありましたら、立候補をお願いします。</p> <p>立候補はございませんか。事務局で腹案がありましたらお願いいたします。</p>
事務局	<p>腹案を申し上げます。副会長に1号委員の高木委員、2号委員の小池委員、4号委員の高村委員の3名様にお願いしたいと思います。</p>
会長	<p>ただいま事務局より、高木委員、小池委員、高村委員を副会長という提案がありました。これについて、ご意見ありましたらお願いします。</p> <p>ご意見ないので、お三方に副会長をお願いしたいと思います。ご承認される方は拍手をお願いします。</p> <p>(承認)</p>
会長	<p>ありがとうございます。全会一致ということにさせていただきます。3人の方は前の席にお越しただいて、お一人ずつご挨拶をお願いします。</p>
副会長	<p>私が代表幹事を務めます福祉21はまさしくパートナーシップのまちづくりをスローガンに活動してきました。この場で幅広い皆様方のご意見を伺いながら、福祉21の活動に持ち帰りたいと思います。活発なご議論を一緒にお願ひできればと思います。よろしくお願ひします。</p>
副会長	<p>ちの地区コミュニティ運営協議会会長の小池と申します。抽象的な議論はなかなか現実的に人々の行動に結びつかない部分もございします。この何年か個別に一つ一つ行動で変えていくつもりでやってきました。しかし、ご存知のようにコロナの中で、遅々として進まないわけです。そういった苦境を乗り越えて、我々の足跡を残したいと思ひます。活発な意見をいただきながら、やっていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。</p>
副会長	<p>男女共同参画から参りました高村でございします。今回副会長という役を仰せつかったのですが、男女共同参画は皆さんもわかりにくいことかと思ひます。私たちは茅野市ならでの男女共同参画で、パートナーの中に参画できたらと思ひています。皆さんからのご意見をもち帰りたいと思ひています。よろしくお願ひします。</p>
事務局	<p>(2) パートナーシップのまちづくりと推進会議について</p> <p>〈資料1の説明〉パートナーシップのまちづくり推進会議の概要、役割、これ</p>

	<p>までの経緯等について</p>
<p>会長</p>	<p>説明は以上になりますが、ご意見やご質問はありますか。</p> <p>(意見なし)</p>
<p>会長</p>	<p>(3)「若者に選ばれるまち」を目指して</p> <p>①若者に選ばれるまちに向けての想い</p> <p>若者に選ばれるまちを目指してとあります。要は若い人たちのためのまちづくりをしようという話ではありません。我々が直面している課題は、大きく言いますと二つあります。これは全国の地方自治体が抱えている課題です。一つは人口減少少子化高齢化。もう一つは財政の硬直化。この二つがどこの市町村でも課題として大きくのしかかってきています。人口減少の問題は、これから超高齢化社会がやって参ります。働き盛りの世代の方々が少なく、高齢者の方々が多くなっていく。要はそのバランスが悪いということです。人口が減ることが問題というよりは、バランスが悪くなるということが問題で、それをどう乗り切っていくのかを考えなければならない時期に来ています。</p> <p>もう一つは、財政の硬直化という問題です。茅野市で言いますと、昭和50年代から60年代の初めにかけて、公共施設がたくさん作られました。特に元気がよかった時代は、1年間のうちに小学校を二つ作りました。それらの施設が40年位を迎えるわけです。そうすると、建て替えや手直しが必要となります。これは小学校だけでなく、中央公民館、図書館、いろいろな施設がそんな状況になっています。これをある程度平準化していかないとならない。予算に限りがありますので、一気に直せませんとはなりません。毎年の支出額を平準化して、計画的にやらなければいけない時期に来ています。そうした形を今後20年ぐらいと見ています。これから我々は、20年間をどう乗り切っていくか。その手法を議論して、その体制をつくっていく時期に来ています。</p> <p>基本的に若い人たちがこの地域に残ってもらわなければならない。それから、若い人たちがこの地域に来てもらわなければならない。できるだけ人口を減らさない形にして、この20年間を乗り切っていきたい。そんな体制作りのため、若者に選ばれるまちを目指してと表現しています。</p> <p>それにはいろいろな方法があって、資料に書いてあるのは、防災、見守り、学び、移動とあります。簡単に言うと、今までたくさんの人の手をかけて、防災の見守りをやって参りました。それから、移動は効率的に運行できないと、まちづくりの基本が難しくなるということで今始めています。</p> <p>いずれにしても、新しい技術を導入して人が手をかけなくても済むような体制を作りつつ、人が手をかけなければいけないところに人手をかける体制づくりをしたい。そのために、新しい技術を入れていく。回覧版があります。回覧版は伍長さんが配ってくれています。だけどそれをネットでダウンロードできるようにするだけでも手数はかからないようになります。ただし、ある時期は、両方並行してやらなければならない。アナログの手法で欲しいという人もいれば、デジタルでという人もいます。徐々にデジタルでもいいという人が、当然増えていくと思います。そのように移行していくということ、今から考えていかなければなりません。</p> <p>国はデジタルトランスフォーメーション、DXと言っています。デジタル庁を</p>

作って、日本中で大きな Windows みたいなものを作って、基幹 OS を作って、その上に各自治体でアプリケーションを載せます。その前にまずはデジタル化しないと、いきなりトランスフォーメーションできないだろう。徐々に庁内、市内で少しずつやっていきたい。例えば、引っ越しをしてきた時にその手続きをします。他にも手続きをしないと、引っ越しが完了しない。1ヶ所で手続きをすると、手続きが一度で済んでしまう。データリンクをすると、それが可能となります。結果は同じだけれども、行う過程が違い、非常に効率的にできることを、トランスフォーメーションといい、目指すところはそこになります。

今、「のらざあ」を実証運行しています。バスを普通に動かしているけれど、停留所に行くのは厄介、時間が合わないということで、利用率が全く上がりません。同じお金をかけるのなら、1人でも多くの人に活用していただける公共交通体系にしたいということで「のらざあ」の実証実験を行っています。

未来型「結」で実現、たくましくやさしい茅野市とあります。実はこの未来型「結」が、パートナーシップのまちづくりと非常に関係があります。パートナーシップの分野別や地域のみならず、個人ボランティア、市民活動団体、企業、学校、行政等、あらゆる主体が繋がりを築き、共通の目的を実現するために、それぞれの特性を生かしながらとあります。こうした様々な主体が連携していくということを、未来型「結」で、イメージしているところであります。「結」というのは、昔は田植えをしたり、稲刈りをしたり、地域コミュニティの一つの固まり、繋がりがあったけれど、それを全市的或いは市外と想定したのが、未来型「結」ということになります。

例えば、茅野市には1万戸を超える別荘地があります。そこに多くの方々がすでに住んでいらっしゃいます。元大学の先生とか、いろいろな知見を持った方々がいらっしゃいます。そういう人たちとも繋がっていく。いろいろな形の繋がり方があっても、実際に会う繋がりも持ちながら、デジタルの環境の中でも繋がる。それは全国的な広がり、或いは世界的な広がりということを実定できます。いろいろな人たちの知見だとか、その人が持っているネットワークを上手く活用しながら、茅野市のまちづくりをしていければという思いが、この未来型「結」となります。

たくましくやさしい茅野市は、20年ぐらい前から言われています。このたくましいというのは、たくましくなければやさしくできないとご理解いただきたい。つまり、財政がきちんと裏打ちされていないと、福祉、環境、教育、がしっかりとやっていけない。財政面のこともしっかり考えていかなければならないということで、たくましくやさしい茅野市となります。

最後はこれからの進め方です。来年をDX元年としていきたいと思っています。国はデジタル庁を設置して、DX（デジタルトランスフォーメーション）を進めていくという体制に入りました。それに移行する形で県も、そのような体制作りに入ってきています。我々もその準備をしっかりとしていかなければいけない。スーパーシティというのは国が作った言葉です。もともと国家戦略特区、第一次国家戦略特区があったけれども、これは第二次国家戦略特区という位置付けになります。規制を緩和するために特区申請をするということです。現在、全国で31の自治体がエントリーをしまして、選ばれるのは5ヶ所ということになります。ほとんど大きな町がエントリーをしています。ただ、我々は小さい町ですけれども、いろいろな思いをできるだけ早く実現したいということでエントリーをしています。五つぐらいの項目で出しています。その代表的な例は諏訪中央

病院の遠隔診療です。

人口減少少子化高齢化問題の一つになりますが、お年寄りが増えると病院の病床の数はどうなるのか。或いは介護施設の数はどうなるのか。いろいろな課題が出てきます。であるならば、お医者さんが往診いただけるように、それも全部回りきれないので、遠隔である程度診て、どうしても往診しなければいけないところだけ往診してもらえるような体制はつくれないか。

或いは看護師さんが処置できる権限があるけれども、それをもう少し幅を広げて、お医者さんの判断をいただかなくても処置できるように規制の緩和ができないか。未来都市をつくとといったイメージがありますが、そうではなくて、この見える空間は同じですが、今よりももっと効率的で便利になるといったことをご理解ください。

パートナーシップのことについても若干お話をさせていただきます。今、人口が減ってきているということで、消防団の団員数の確保が非常に難しい状況になってきています。ここで、これからの消防団はこうあるべきだという一定の素案を作ってくれました。それについて、市民の皆様と議論をしたいと思っています。もともと茅野市の消防団というのは、各区の中から発展してきていまして、それが一つの固まりになって、市の消防団という形になっています。おらほの消防という区もたくさんございますので、じっくりと各区の区長さんとか、そういった方々に、理解をいただきながら進めていきたい。

区にはいろいろな役があります。消防団は比較的若い人が入団します。加えて今、例えば保健補導員のなり手がいないとか、区の役もなり手がいない。1人何役という話もあり、区長が終わったら翌年はこの役をやると決まっていて、非常に皆さん忙しくなっているという現実があります。

パートナーシップのまちづくりを20年以上やってきました。その中で、いろいろな市民活動が活発に行われたことは大変よかったことですが、一方で、そうした課題も見えてきたというのが現状ではないかと思っております。やはり、ここで一旦振り返って、新しい形のパートナーシップ、その原点に沿うまちづくりをしていけたらと思います。

やはり長い年月がたつと何事もそうですけれど、少しずつ、本質を忘れて変わってしまうことはたくさんあると思います。

もう1度基本を見直して、パートナーシップのまちづくりを、みんなが同じ考えの中で始められるような環境を作りたいと思っています。もしかしたら、一人一人のパートナーシップのまちづくりが、それぞれ違ってきているのではないか。そこをみんなで意思統一をしていくという作業をすることによって、また、違った展開が見えてくるのではないかと思っています。

いずれにいたしましても、冒頭に申しあげましたこれからの10年20年をどういう形で、まちづくりを行っていけば、みんなが正しく幸せなまちづくりができるのかということを考えていきます。同時に今、少しずつ取り組みを始めようとしているところであります。

以上そんなことを申しあげて、それを基に意見交換をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

事務局

それでは、これからグループで意見交換を行っていただきます。ワーク1では、ただいまの市長の話を受けて、どう受けとめたかというところの話し合いです。ワーク2は、若者に選ばれるまちを目指すに当たり、それぞれの団体や地域

副会長	<p>コミュニティにおいて、取り組めることは何かについての意見交換です。会長、副会長もグループの方に移動してください。よろしくお願いします。</p> <p>これからお集まりいただいた皆さんでグループワークをやります。まず今井市長さんの話してくれたことをどのように受けとめるかということです。若者に選ばれるまちを目指してという視点で今から話してもらいますが、どのようなことでもいいですが、このワーク1とワーク2を意識しながら、それぞれのグループで話してください。いまから私がファシリテーター（進行役）を選びます。女性のいるグループは女性がファシリテーターをやってみてください。女性がお2人いたら、どちらか1人を決めていただいて、男性しかいないところは、一番若い方がファシリテーターをやってみてください。</p> <p>その方が進行役で、ワーク1とワーク2について、全員が話をするようにしてください。それから、誰かの意見を決して否定しないでください。自由に発言できるということが大事です。時間がきましたら声をかけます。</p> <p>○グループワーク（20分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ「若者に選ばれるまち」を目指して</li> <li>ワーク1 今の市長の話はどう受け止めたか</li> <li>ワーク2 「若者に選ばれるまち」を目指すにあたり、それぞれの団体や地域コミュニティにおいて取り組めることがあるか</li> </ul> <p>5つのグループで行う。</p> <p>○グループ発表</p>
副会長	<p>今、司会をしてくださった方に、どんな話が出たか発表していただきたいと思います。自分が印象に残った話でもいいですから、順番にお伺いしたいと思います。1グループからお願いします。</p>
委員	<p>今回いろいろな立場の方がいまして、ちの、湖東、豊平、米沢の方がいるグループでした。私たちはこれからデジタルに進んでいきますが、何が大事なことなのか、距離は変わらなくてもデジタルによって近くなること、子どものこと、地域の中のこと、都会から移住してくる人たちがどんなふう思うか、それぞれの意見を出し合いました。こういった話し合いの時間がとても大事かと思いました。そんな中できつとこのワーク2の課題が見えてくるかと思いました。</p>
副会長	<p>はい、ありがとうございます。事態が進むということについては、仕方がない。それもそういうものだということだけれど、その中にあって茅野市は一体どんなものを大事にして、そして若者が一体何を大事に考えているのかという話が、それぞれの立場から出ていたと思います。それでは、2グループお願いします。</p>
委員	<p>それでは2グループです。区のコミュニティの役員とか、区議会議員とか、そうした役に対してなり手がいないという問題が複数の方からありました。若い方は居るけれど、なりたくない、なろうとしないというところは、若い方は考え方が違うのではないか。例えばこの前の高部の災害の時に、ボランティアで若い方がたくさんいらっしゃいました。そのように目的が明確なものに対して若者</p>

副会長	<p>は参加をする。でも、何をやっているかわからないところに関しては、参加したくないとなってしまうのではないかと。確かにそういったこともあるかもしれないと思いました。パートナーシップのまちづくりにおきましても、先ほど市長さんのお話にありましており、もう1度立ち返って何が目的だったかということを確認にして、スタートを切れるといいのではという話でした。</p>
委員	<p>はい、ありがとうございました。若者は考え方が少し違うという意見。確かにボランティアというと大勢集まります。パートナーシップのパートナーの中に若者があまりいないというのはよくないかもしれないです。是非ともパートナーにしていかないと。でも参加を促すと、今話に出ました、なかなか手がいないということです。つぎに3グループお願いします。</p> <p>市長さんの話で、高齢化が進んでいるということ、財政が硬直しているということは、自分たちの中ですごく意識するところです。そのDXが進んできた時に、若い世代と我々世代の情報を上手に共有していくことを、慎重にかつ、丁寧に進めていただきたい。若者に選ばれるまちを目指すには、やはり若い人たちの意見を聞きたいという話がありました。</p> <p>いずれ若い人たちも年をとるので、それぞれの年代に合わせたところでの折り合いは見つけなければならないのかもしれないかもしれません。それぞれの年代での暮らしやすさとか、これからの子どもたちを育てていくにあたり、地元に着心を持つ心を育てるといったところをポイントにしていったらいいという意見がありました。その地域の文化に溶け込む子育て、そして、安心して育てられる環境というのを、自分たちの中で作っていくことが、大勢の人たちに受け入れてもらえるところに繋がっていくのではないかと。</p> <p>市長さんの話の中で出てきたサービスを受けるために、財政的な部分はどうかやってフォローするのかという疑問に、企業との連携という話が出ました。私がやっている子ども食堂でもやはり企業からの寄付を受けています。理科大生さんたちの優秀な頭脳・能力で、子どもたちの学習支援も手伝ってもらっています。そういった、積極的に若者と関わる状況を作っていくっていいのではないのでしょうか。これが、地域に広がって、そして、市に広がっていけば、若者との関わりの中で、良い形で進めていかれるのではないかと思います。</p>
副会長	<p>はい、ありがとうございました。若い人の意見を聞こうじゃないかということですね。次に4グループお願いします。</p>
事務局	<p>市長さんの話の受け止めは、未来型「結」では、より早く世代交代が進んでいくだろうという意見がありました。ただし、「結」、地縁の組織はとても強く、例えばコロナの影響がある中で、東京からあの子が帰省しているといううわさ話になる。「結」は、バランスが大事で、その地域のあり方や個々の人のあり方、繋がり方という部分が大事という意見もありました。</p> <p>ワーク2ですが、区の中で諸先輩方からの申し送りは、時代に合わせた改善が可能ならば変えていく。団塊の世代の時代から、今動ける人自体が減っているので、時代に合わせて役割分担を変えていく。GIGA スクールで子ども1人1台のタブレットがあり、先生が皆に平等に照会し、全員が回答できるという環境。地区の中で、子どもたちと農作物を作り、地区の中で誇れるものを探す。そういっ</p>

	<p>たことで10年、20年先に繋がっていったらという意見がありました。最後に、デジタルで繋がっていくことも大事だけれども、既存の地縁の中にいる人の繋がりをどう考えていくのか。諸先輩方や若い人たちもいるという中で、どうバランスを取っていくのか。若者だけ特化してではなく、いろいろな世代がいるという中で、デジタルであったり人の繋がりであったり、バランスのいい地区になるのがいいというところでまとめました。</p>
副会長	<p>ありがとうございました。まさにその繋がりバランスを考えるとというのが未来型「結」の一つのテーマになります。次に5グループお願いします。</p>
副会長	<p>5グループでは最初にDXは必然であり、そして「結」が実現できるところから話が始まりました。</p> <p>若者にも選ばれるまち、幅広い世代に選ばれるまち茅野市というところで、DXが進めば新しい企業が地方にも来て、雇用も増えるはずです。そうすると市長さんのお話にあった、たくましくやさしいにも繋がっていくと思っています。ではDXが進んでいく中で、若者に選ばれるまちを考えると、各コミュニティや各地区で専門性に特化した人材が必ずいる。それをどう吸い上げて、どう活躍する場としてコミュニティを活用するのか。</p> <p>また、これからおそらくやってくる災害のときに、DXとかAIの力が生きてくるのは、コミュニティの力だと思っています。地域の人材を育てるのは、やはりコミュニティの力でもあるという話がありました。</p> <p>コミュニティは、今も開かれていると思うし、そこで、皆さんが楽しく、多くの人に参加していただけるか。若い方たちにも参加していただけるかで、大きく変わってくると思っています。本当に各地区、特化した、いろいろな才能を持った方がいらっしゃると思いますので、それをどう吸い上げていくかが、これからの大きな課題になっていくと思います。</p>
副会長	<p>比較的皆さん前向きに受けとめられて、概ね肯定的に思われた。でもDXというと、ちょっと自分にはなかなかわかりにくい。市長さんが、今後うまく混ぜ合わせながら徐々と言ったことは、そういったことの配慮だと思います。話を聞いていると確かに、若者だけじゃない。そうじゃない方たちにも選ばれるまちが、すなわち若い人たちにも選ばれるまちなのかもしれないと思いました。</p> <p>自分が今日関わっている分野で、若者に選ばれるまちとなることを想定して、DXとか、未来型「結」とかをベースとして、これから自分の領域でどう取り組むかということを、もう少し突っ込んでお話ができるとよかったかもしれないです。今日のところは、考えなければならないということ、持ち帰っていただくということでまとめとします。</p>
副会長	<p>私は永明小学校のコミュニティスクールにも関わっていて、その時に学んだことがすごくたくさんありました。そこに参加している人は、学校からこういったお手伝いをしてくださると助かりますと話があると、それに対して必死に考えるわけです。すると必ずそれに長けた人がいて、その方を学校に繋げる。そうしたいいろいろな繋がりを、地域でできるというのが、一つのヒントかと強く思いました。実際、地域に素晴らしい人材はたくさんおられるけれども、コミュニティの中でその人材を生かしきれていないのではないかと思います。</p>



会長

全体の感想を、一言お話をさせていただきます。今お話しさせていただきましたDXは、一つのまちづくりの手法であります。どのようなやり方がいいのかは、いろいろな議論があるところだと思っています。しかし、その根幹をなすパートナーシップのまちづくりを、これからどのように展開をしていくのか。何となくみんなその言葉だけを共有しているけれども、それを、同じように理解をすることが、今、求められている気がします。そんなことを提案させていただく意味で、投げかけをさせていただいたわけですが、こんなにいろいろな意見が出てくる。本当にありがたいなと思います。これからもっとこういった議論を進化させていければと思っています。今日は、みんなで考えるきっかけづくりが少しできたと思っています。

事務局

(4) 準備委員会委員について

準備委員会は、推進会議の協議事項、年間計画、委員の参集範囲、会議手法等を検討していただいています。委員8名以内で組織することになっていまして、去年は副会長3名様と委員2名様にご協力いただきました。ご協力いただける方は、ぜひ名乗りを上げていただきたいと思います。いなければ急なことで、後日、個別にお声掛けさせていただきます。その時はどうぞよろしくお願いいたします。それでは(4)は以上となります。

事務局

(5) その他

続いてよろしいですか。それでは(5)のその他になりますが、全体を通して何かございますか。

(意見なし)

以上をもちまして、本日の会議を終了とさせていただきます。長時間にわたりまして、ご参加いただきありがとうございました。

4 閉会(午後8時40分)